

第3期常滑市子ども・子育て支援事業計画（案）に対するパブリックコメント実施結果

1 パブリックコメントの概要

(1) 実施概要

募集期間：令和7年1月25日（土）～2月26日（水）

提出方法：持参、郵送、メール、FAX

周知方法：広報とこなめ、市ホームページ、市公式 SNS（LINE、X、Facebook）、保護者連絡アプリ（すぐーる）

閲覧場所：市役所（子育て支援課）、子育て総合支援センター、保健センター、市ホームページ

(2) 実施結果

提出者数：2人（内訳：持参0人、ファックス0人、メール2人）

意見総数：7件

(3) 意見への対応

計画の変更は行わず、今後の子育て施策等の参考とします。

2 意見の内容とそれに対する市の考え方

No.	意見の内容	市の考え方
1	産後の8週間で出産による体の負担は回復しません。核家族化が進んでいて、育児を手伝っている人がいないなか、育児を全て母親負担にするのはナンセンスです。第二子以降を出産して男性が育休を第二子以降の為にとったのに、第一子が退園になる制度はおかしいと思います。第一子の為に育休をとっていません。	本市は、保護者の疾病等により家庭での保育に欠ける場合を除き、退園とさせていただいております。
2	保育園、幼稚園に予算を振るのではなく、勤務している保育士個人にお金が入るように予算を振ってください。	公立園における保育士の給料は、条例に基づき適切に支給しております。民間園については、国が定めた基準により給付費を支給し、また、延長保育や一時保育事業等を実施している園に対して補助金を交付しており、民間事業者において適切に給料が支給されているものと考えております。

3	一部園では、保育士さんが制作物に自腹を切っていると聞きます。断固として反対します。匿名でおもちゃや物品を寄付できるような制度を利用してはいかがでしょうか。	匿名かどうかに関わらず、各園、寄附の受け入れを実施しております。
4	放課後児童クラブにおいて、シルバー人材センターの方やボランティアの方々が関わっていると思うが、こどもの暴言を注意できる人がいない。こどもの間でも児童クラブに行っている子たちの言葉使いが酷いと話が流れてくる。完全な児童の育成ができていない。	集団生活に支障をきたす場合など注意が必要な場面においては、市が雇用する職員が都度注意するよう努めてまいります。
5	市議会報でオーガニック給食をすすめたい話が以前出ていたが、断固として反対する。オーガニックにする前に、まずはすべてのこどもがお腹いっぱい食べることが優先だと思う。オーガニックを話し合う余地があるなら、もっと先にすべきことがある。時間を無駄にしないでほしい。	ご意見として受け止め、常滑市議会に共有させていただきます。
6	市役所1階のこども図書室横の授乳室ですが、一部キャリアの電波が入らず、かつ個室に非常ボタンがない。人通りがないため、1人で利用するのが怖い。	ご意見として受け止め、関係課に共有させていただきます。
7	子どもの定義の話になりますが、子ども基本法では子どもの年齢を定義していませんし、常滑市全体として持続可能な街、魅力創造都市を実現させるには子育てに必要な世代から、子育てから自立する青年も含めたほうがより速いスピードで市全体の活力の向上につながると思います。 また近年、小さな子どもに対しては政府も民間も施策が多く出てきておりますが、中学生以上の義務教育を卒業した若者世代については、自己責任で、トラブルに巻き込まれるケースも多いと感じています。彼らが地域で暮らしていくには、仕事もなければいけませんし、常滑市全体でいち早くサポートできる体制を彼らに向けてほしいです。 担当が異なるかもしれませんが、連携して、こども・子育て支援の中に少なくとも高校生の実態調査や環境改善を市として取り組んでほしいと思っています。	本計画の対象は、生まれる前から乳幼児期を経て、18歳に達する日以後の3月31日までの間にあるこども及びその保護者としております。 しかしながら、本計画に記載の支援策は、概ね0歳から11歳までのこども及びその保護者が主な対象となっており、また高校生年代や概ね18歳から30歳までとされる若者については、その年代特有の課題に合わせた、本計画とは別の支援が必要であると考えます。 高校生の実態調査はじめ、若者支援については、今後、実施について検討してまいります。